

東北学院大学 チャペル ニュース

ク リ ス マ ス
特 集 号

第99号 2006年12月
東北学院大学宗教部
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号
〒980-8511 (022) 264-6428

● 巻頭言 ●

約束の継承者



宗教部長 佐々木 哲夫

今年もクリスマスマスの季節がめぐってきました。二千年程前、ベツレヘムでの出来事です。飼葉桶に寝かされた乳飲み子イエス・キリストの誕生を、遠くは、輝く星に導かれた学者たちが、また、近くは、天使の言葉に導かれた羊飼いたちが、祝うために駆けつけました。貧しさの中で迎えた、心暖まる最初のクリスマスです。

二分したのです。即ち、紀元前(BC)キリスト以前)と紀元後(AD)主の年)に分けたのです。イエス・キリストの誕生は、人類の節目の出来事とされたのです。では、イエス・キリストの誕生は、歴史を二つに分断するものとなったのでしょうか。いいえ、そうではありません。そうではなく、むしろ、古い時代と新しい時代をしっかりと結びつけたのです。聖書は次のように記しています。

二分したのです。即ち、紀元前(BC)キリスト以前)と紀元後(AD)主の年)に分けたのです。イエス・キリストの誕生は、人類の節目の出来事とされたのです。では、イエス・キリストの誕生は、歴史を二つに分断するものとなったのでしょうか。いいえ、そうではありません。そうではなく、むしろ、古い時代と新しい時代をしっかりと結びつけたのです。聖書は次のように記しています。

多くの人を指して「子孫たち」とは言われず、一人の人を指して「あなたの子孫」と言われています。この「子孫」とは、キリストのことです。(ガラテヤの信徒への手紙三章一六節)

主は、…アブラムに言われた。「さあ、目を上げて、あなたがいる場所から東西南北を見渡しなさい。見えるかぎりの土地をすべて、わたしは永久にあなたとあなたの子孫に与える…」(創世記一三章一四節～一五節)

今年もクリスマスマスの季節がめぐってきました。イエス・キリストが継承した主の祝福の約束は、今日、主を礼拝する私たちにも付託されています。

Christmas Message

キリスト教との出会い



理事長 赤澤 昭三

私が生まれて初めてキリスト教に関わることに遭遇したのは小学校三年生の頃です。

藤掛君という親しい級友がいて私を教会学校に誘ってくれたのです。彼から一緒に行くと言われた私は、教会自体はもとより教会学校とはどんな学校なのか見当もつきませんでした。とにかく興味と不安が相半ばする心地で彼について行ったのです。会堂に入ると数十人の子供たちがいて一緒に歌を謳ったり紙芝居を見たりしていました。その後、私は日曜毎に教会学校に通うようになりました。そのうちクリスマスがやってきました。その日はプレゼントをい

いたせいかとても楽しかったという思い出が残っています。

彼の家にも時々遊びに行きました。ご両親と長兄と彼の四大家族のようでした。家業は洋裁店で、家の人たちはいつもミシンに向かって忙しく仕事に励んでいました。しかし私が訪ねると家族皆が笑顔で私を迎え入れてくれました。白髪混じりのご両親の温顔とやさしい声が忘れられません。両親と離れ離れに過ごすことの多かった私にとってすごくアット・ホームな感じがしました。しかしその後いつの間にか私の足は教会学校から遠ざかり、藤掛君の家に遊びに

いくこともなくなりました。

後で分かったことですが、彼の家は永らく住んでいたアメリカから帰国したクリスマスチャン・ホームでした。ご家族の勤めさ、ホスピタリティ、そして彼が教会学校に誘ってくれた理由も今ではすべて合点がいくような気がしています。藤掛君は家族の一員として健気にも私のために福音伝道の使命を果たそうとしたのだというこも。

私にとってのキリスト教との次の出会いは一氣に戦後のことになります。高校入学直後に私は軽い肺結核になってしまいました。そのため一年間休学しましたが、その時初めて聖書を手にとることになったのです。それはペーパーバックの新約聖書でした。直ぐ上の兄が大学入学時に学校から贈られたものとのことでした。しかし当時の私にはそれがキリスト教のバイブルであるとの明確な認識はありませんでした。書棚にあった小型の分

厚い本が何となく珍しくて手にとったものの拾い読み程度で終わったと思います。いずれにしましても聖書についての第一印象は遺憾ながら新奇な書物という一語につきたよ

うです。しかし今の私にとって聖書は必需の書物になっています。教会や学校の礼拝に出る場合だけでなく日常生活にあっても携帯電話並み、否それを超えた大切な宝物です。

キリスト教とのその次の出会いは、病氣から回復して復学した高校の同級生小池君との交友の中で実現しました。私はこの段階でもまだキリスト教について明確な理解がありませんでした。したがって彼が私を教会に誘ってくれた時にもやはり不安と好奇心が相半ばする思いでした。彼が私を案内してくれた教会は二つでした。一つは高校の英語担当の小泉一郎先生が属されるという教会で、街の中心部にありました。聖日礼拝に二、

三度出席したと思います。しかしこの洋風の会堂がとても壮麗に見えたということのほかに特別の印象はありません。その意味では私は未だいい加減な「求道者」だったわけです。

高校時代に訪れたもう一つの教会は郊外の住宅地にありました。普通の民家とあまり変わらない木造の小さな教会でした。ところがこの教会でいきなり衝撃的な場面に遭遇したのです。礼拝堂に入ると壇上に一人の瘦身の青年紳士が立っていました。この方こそ当日の講演の講師北森嘉蔵先生だったのです。以前から先生のご高名を知っていた小池君は、東京から来られる先生を待ちかねていたようです。聴衆の中には左翼系の学生が多数いました。私たちが教会の礼拝堂に入った時はすでに講演の後で、聴衆と講師との質疑応答に移っていました。マルクス主義で理論武装した(つもりの)学生たちが次々に

立って得意そうにキリスト教を批判したり講師のことを論難したりしました。ところが北森先生は泰然自若、少しも動じることなく彼らの一人一人に対して実に丁寧に応答されたのです。そのため最初は騒々しかった彼らもさすがにおとなしくなってしまうました。私も終始厳然として揺るがない先生の態度と見事な説得力にこれまで経験したことのない興奮と感動を覚えたことを忘れることはできません。

私よりも遙かに真摯な求道者であった小池君は、在学中に哲学や文学などについて多くのことを私に教えてくれました。こういうことにとんと疎かった私がドストエフスキ、キェルケゴール、カフカ、権名麟三や野間宏などの作家を知り、その作品に関心を抱くようになったのはもっぱら彼のおかげでした。唯物主義の呪縛を克服するには実存主義しかない熱心に説得

してくれたのも小池君です。しかしいづれにしてもこの頃の私にとってのキリスト教はなお思想的な関心事という域をあまり出なかったように思います。私が信仰の問題としてキリスト教に向かったのはそれから一〇年以上も後のことです。とはいえ、やがて受洗の祝福に与り教会に規則的に足を運ぶようになった私にとって上記の交友と体験とが全く無縁であったとは考えていません。その一つ一つは主イエスが私の知らないうちに共に歩んで下さった旅路における里程標のように思えてならないのです。

Christmas Message

クリスマスの愛



学院長
倉松 功

はじめに

クリスマスというのは、キリストの誕生を祝う日のことです。キリストが一二月二五日に生まれた、というよりもその日をキリストの誕生をお祝いする日として、四世の終り頃から古代教会、そしてカトリックが守り、同じようにプロテスタントもまた守っておりま。す。(ついでにいえば、ギリシャ正教会は、一月六日にキリストの誕生を祝っています。)

今日では、日本でも一般にクリスマスを行なうようになりました。なぜキリストの誕生日を祝うのでしょうか。その理由にはいろいろあるでしょう。その一つは、子供の誕生会から推測される理由です。その子が生まれて、そこにいるという、その子の存在そのものを喜ぶ、祝うということがあります。その子が生まれてから存在していることそれ自体を喜ぶというのは、実は大変キリスト教的なことです。というのはキリスト教の考えによりますと、一人の人間が生まれるということが、そしてその人がそこにいるということも、昔も今も今後も永遠にただ一回しかないからです。それだけでその一人の人間が特別な存在であり、固有の意味が与えられていることになりました。そのように一個の人間としての一人一人の私の意味を自覚させるのがクリスマスでもあります。聖書は記しています。

「人はそれぞれ神から賜物をいただいているのですから、人によって生き方が違います」(コリントの信徒への手紙一七章七節)

ところで、子供でなく、故人、歴史上の人物あるいは先輩者の誕生日を祝うというのは、今生きている人間の若い人の誕生日を祝うのとは少し違います。その場合は、その人物が何をしたか、その思想、考えはどんな意味、影響を与えているのか、ということが加わって誕生日を祝うことになりました。

誕生

そのようなわけで、クリスマス、主イエス・キリストの誕生を祝う意味は、主イエスの生涯とその業績や宗教的、文化的思想の意味を明らかにすることにあり、ということになります。そのようなことなので、今日は主イエスの生涯、業績や教えのいくつかについて学び、その誕生の意味を共

に考えてみたいと思います。そこでまず、主イエスの誕生です。主イエスの誕生はどうであったのでしょうか。生まれた所は、小さな村の馬小屋です。それは、主イエスご自身に喜びをもたらす快適な場所ではありません。自らを喜ばせるのではなく、先程の聖書の中心的言葉が記しているようなことだったので。「民全体(すべての人々)に与えられる大きな喜びを告げる」。自分を喜ばせるのではなく、すべての人々を喜ばせるために来たというのです。すべての人々というのは、キリスト者もそうでない者もです。民族、所得や階級、出身の違いはなにも関係ありません。馬小屋で生まれた主イエスの誕生は、ご自身以外すべての人に喜びを与えることを役目、使命とした方に相応しい誕生でありました。

にお与えになったといいましたが、粗末な馬小屋での誕生、それはすべての人々、わたしたちにご自身を与え・献げる方に相応しい、しるし(徴し)であったと理解されます。

死と復活

主イエスの生涯の最後は、誕生の時よりも一層他のためということが鮮明です。ローマの総督は、主イエスを、罪があるかどうか、死刑に相当するかどうか尋問しました。しかし、当然のことながら、彼は主イエスに罪を認めることができませんでした。主イエスは、罪がないのに、十字架にかけられて亡くなられました。その十字架の上で、ご自分を十字架にかけた人たちのために、主イエスの父なる神に祈られました。「父よかれらをお赦し下さい。かれらら自分が何をしているか知らないのです」と主イエスは祈られたのです。ここでは一層「自分のため」ということがあ

りません。ご自分を十字架につけている人のため、つまり、ご自分の敵のために祈られたのです。主イエスは、自分を愛する人を愛するだけでなく、敵を愛しなさいと、そのように山上の説教で教えたことでした。そして、今十字架の上で敵を赦して下さいと祈られたのです。敵を愛することを実践されておられます。それは、他の人のための愛が、徹底した形で示されているものでした。主イエスは、その誕生から死と復活後もまた「私たちのために」働き続けておられます。このようにキリストは、自分自身のためでなく、他の人のために仕えるということを実践しておられます。

教え

次に少し主イエスの教えを学んでみたいと思います。どんな教えだったのでしょうか。キリストのお弟子さんは二人いました。一般には一二使徒といわれています。実は一

二人のお弟子さんの中で、順位争いがあった時のことでした。キリストのお弟子さんの中にも、順位争いがあったということは、私たち人間の中にある業(さ)が、罪といったものの深さを改めて教えられます。その意味で、弟子たちも救われなければならぬ人たちでありました。それはともかく、キリストの次に誰が偉いかと言いつ争ったことがあった時のことです。その折、キリストはこんな話をされました。

奉仕

「そこでイエスは一同を呼び寄せて言われた。『あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべて

の人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。』(マルコによる福音書

一〇章四二―四五)

神の愛とわたくしたち

「神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。」

(ヨハネの手紙一

四章九―一節)

宗教改革者ルターは、主イエスはご自分の持つておられるものを、すっかり他のため

この号を手にかけている頃は、
ちょうど大学クリスマスが開
かれていたことと思います。

一年生諸君に
とって大学クリ
スマは初めての経
験かもしれません。

第二次大戦の後、
戦後日本社会にク
リスマスは年中行事として定
着してきました。家庭で祝わ
れるクリスマス、仲間や友人



大学宗教主任
永井 義之

泉キャンパス

スは CHRIST-MAS と書く
ように、キリスト (CHRIST)
を拝む礼拝 (MAS) が本来
クリスマ

月の行事と
して欠かせ
ないもので
あるように
す。

たちとのクリスマス会、プレ
ゼント交換、等々、その形は
さまざまですが、年の瀬一二
月の行事と
して欠かせ
ないもので
あるように
す。

今年もクリスマスを祝う時
期となりました。町にはクリ
スマスの雰囲気は漂う時です。
皆さんの周りでも
様々にクリスマス
の祝いをする計画
が立てられている
かもしれません。
どんな祝い方をし
ても、本来クリスマスは礼拝
をする時なのです。そもそも
「クリスマス」という言葉は



大学宗教主任
野村 信

多賀城キャンパス

「キリスト」と「ミサ(礼拝)」
が合成されて「クリスマス」
という言葉になったものでは
ありません。多賀城キャンパス
では、この精神を継
承して、クリスマスの礼拝を
行います。

「キリスト」と「ミサ(礼拝)」
が合成されて「クリスマス」
という言葉になったものでは
ありません。多賀城キャンパス
では、この精神を継
承して、クリスマスの礼拝を
行います。

各キャンパス の メッセージ

のクリスマス礼拝は、一二月
一四日です。各教会でも一二
月二四日の日曜日にクリスマ
ス礼拝を行うと思います。こ
こで真のクリスマスを心より
祝いましょう。

の姿です。大学クリスマス礼
拝を通してぜひ本来のクリス
マスを確認し、それが何であ
たのか、またどんな意味があ
るのかを考えてほしいもので
す。



土樋キャンパス

大学宗教主任
北 博

通りにはイルミネーション
がまぶしく輝き、店のウイン
ドーは華やかに飾り付けられ、
街角にはクリスマス・ソング
が流れ、何となくわくわくす
る季節、クリスマス・シーズ
ンがまたやって来ました。し
かしこうしている間にも、世
界では多くの人々が飢えと貧
困に苦しみ、日々多くの人々
が戦争で死んでいきます。ま
た、人に言えない悩みを抱え
ている人、心の傷を負って苦
しんでいる人もきっといるこ
とでしょう。お祝いなどする
気になれない方もいるかもし

れません。
ルカによる福音書二章一
節には、野宿をしながら夜通
し羊の番をしていた羊飼いた
に天使が近づき、「今日ダビ
デの町で、あなたたちのため
に救い主がお生まれになった」
と告げた、と書いてあります。
こんな時代だからこそ、救い
主の到来の意味を今一度考え
てみるべきではないでしょ
うか。皆さん、一緒にクリスマ
ス礼拝に参加し、祈りましょ
う！

「暗闇を照らす光」

— 降誕物語のメッセージ —

マタイによる福音書一章一八〜二五

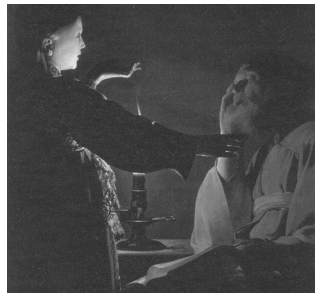
大学宗教主任 出村 みや子



クリスマスについて古来より心温まる物語が数多く伝えられていきますので、小さい頃に読んだクリスマス絵本の場面や、また教会の日曜学校や幼稚園の降誕劇(ペイジント)で乙女マリアや天使たち、羊飼いの役を演じたことをなつかしく思い出す方もたくさんおられることでしょう。ナザレのイエスについて、歴史的に確認されるのは彼が十字架架刑に処せられたという事実だけで、イエスの生誕について新約聖書の記述には相違があり、西欧世界で語られてきた数多くのクリスマスや民衆劇などを通じてキリスト教世界に徐々に普及して

いったようです。しかも歴史的にはカトリック教会とは異なり、今日のプロテスタント教会には、聖母マリアを神の母として崇敬する伝統はありませんから、天使による受胎告知や処女降誕といったクリスマス物語は、せいぜい子供向けのファンタジックなお話と考える方もおられるかもしれません。私もこれまではクリスマスの時期を除いて聖書の降誕物語の意味にさほど注意を払ってこなかったのですが、二〇〇五年の春に初めて日本で公開されたフランス(ロレーヌ公園)の画家ジョルジュ・ド・ラ・トゥール(一五九三〜一六五二)の絵画との出会いが、そうした印象

を一変させました。受胎告知の絵はほとんどがルカ版によるマリアへの告知の場面ですが、ラ・トゥールは「ヨセフの夢」という主題の絵を通じて現代人に対して聖書に記されたクリスマス記述の意義を豊かに伝えてくれます。マタイ福音書の受胎告知の物語では、登場人物はマリアの婚約者のヨセフ



であり、天使は夢でヨセフに受胎告知を行います。「イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表

ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った」とあり、聖霊による男の子の誕生が告げられます。

愛する婚約者のマリアの身に起こった突然の出来事に苦悩するヨセフが、夢で天使と出会うのです。この場面はヨセフの夢の中の出来事として語られているせいでしょうか。あるいは人生の深い苦悩に触れた物語だからでしょうか。伝統的な宗教画のテーマとして用いられることはほとんどなく、「受胎告知」として知られる宗教画のほとんどがルカ版による天使ガブリエルのマリアへの告知の場面です。その意味でラ・トゥールの「ヨセフの夢」は非常にめずらしい例と言えましょう。ヨセフは老人として描かれ、天使はまるで人間の少女のようです。ルカ版の受胎告知の絵が明るく清らかな情景を描き出していたのに対して、この「ヨセフの夢」は暗闇の中でまどろむ

老年のヨセフと、ロウソクの炎に映し出された天使の姿を対比的に描き出しています。

また「羊飼いの礼拝」と題された絵も、聖なる人たちにその時代の衣服が着せられていますが、ロレーヌ地方の農民たちが、産着にくるまったイエス・キリストと粗布でできた服を着た聖母マリアのもとに集まってきている場面です。生まれたばかりの幼子をかこむロレーヌ地方の農民の平安に満ちた風景が、聖書の描くキリストの降誕の場面と重なり、静かに平和の輝きを放っています。恐らくはいつの時代でも、人々は誕生したばかりのあどけない幼子の命の輝きを通して、クリスマスの時期に御子イエス・キリストの降誕の意味に思いを馳せてきたのでしょう。しかしここで私たちがラ・トゥールの生きた時代に目を転ずるならば、これらの御子イエスの降誕を主題とした絵には、当時の人々の平和への熱い祈りが込められていることがわかります。

ラ・トゥールの絵画は現在では数えるほどしか残っていませんが、それは三〇年戦争の際に多くが焼失してしまっただけに他なりません。作品と共にこの画家の名も歴史の闇に埋もれていきました。現在四四点の作品がラ・トゥールの真作であると確認されていますが、ラ・トゥールという画家の名前が再び美術史に登場するのは、驚くことに三世紀を経過した二〇世紀になってからでした。彼が「再発見された神秘の画家」と評されるのはそのためです。彼は「夜の画家」とも評されるように、現存する宗教画には皆、深い闇の中から輝く一条の光が、それも何かに覆われる形で印象的に描き出されています。それはラ・トゥールの生きた時代が、ヨーロッパ諸国を流血の巷へと駆り立てた最大の宗教紛争、一般に三〇年戦争と呼ばれる時代であったことと関係しています。この三〇年戦争がロレーヌ公国にどれ程の悲惨と荒廃をもたらした

たかについて、ラ・トゥールと同時代にロレーヌ公国で生まれたもう一人の画家ジャック・カロ（一五九二〜一六三五）の作品がリアルに証言しています。カロは時代の証言者として無益な戦争に対する怒りを、十八の場面で構成された『戦争の惨禍』と題する銅版画に表現し、西欧絵画史に初めて戦争と戦場の悲惨を客観的に表現した画家として知られます。カロはゴヤの『戦争の惨禍』という同名の版画集にも大きな影響を与えたと言われています。カロは悲惨な戦争のもたらす人々の心の荒廃を痛烈に批判したのです。こうした戦争の狂気に満ちた時代背景の中でラ・トゥールの静かな祈りに満ちた美しい作品が次々に制作されたことを考えますと、彼はそうした状況にある人々の荒廃した心に一筋の光を灯そうとしたのでしうか。あるいは彼自身も戦争やペストのために子供たちを次々に失っていますから、ロソクの光が人物の手で覆

われている手法は彼自身の苦悩の中から生じた心の祈りであったかもしれせん。

「ヨセフの夢」の作品を含めて、ラ・トゥールの一連のクリスマスの作品には伝統的な宗教画に見られるような羽のある天使も、聖なる光を放つ聖家族も登場しません。しかしそれだからこそ、戦争や暴力が止まらず、神がどこにおられるかを問わざるを得ないこの現代世界の中で、平和の御子イエス・キリストの到来の意味について私たちが心静かに思いを潜めることを可能にしてくれるのだと思います。



一二月二五日がクリスマスであることは常識ですが、現実には二四日のクリスマスイヴのほうが色んな行事が行われたりして本番のような印象があります。イヴというのは前の晩にあたるので前夜祭的な意味で二四日が祝われるのでしうか。そうすると二四日に前夜祭をし、さらに二五日にクリスマス当日の祝いをするのがクリスマスの祝い方なのでしうか。ここには近代人

1 'En ἀρχῆ ἦν ὁ λόγος, και θεός ἦν ὁ λόγος. 2 οἱ ἵκανοι δι' αὐτοῦ ἐγένετο 3 πάντα δι' αὐτοῦ ἐγένετο 4 ἐν αὐτῷ 5 και ἡ σκωτια αὐτὸ οὐ κατε 6 Ἐγένετο ἄνθρωπος 7 οὗτος 8 ἦν ὁ φωτός, ἰν 9 Ἦν τὸ φῶς 10 ἄνθρωπον, ἐρχόμενος εἰς 11 ἦν, και ὁ κόσμος δι' αὐτῆ οὐκ ἔγνω. 11 εἰς τὰ ἰδι

Q&A

Q クリスマス・イヴと クリスマスとは

の誤解と混乱があるようです。二四日と二五日は別の日だという言い方は近代人の時間感覚からきていることです。古代の人々の一日は夕刻に始まりました。つまり二四日のイヴ礼拝と言っているものは実は夕刻から二五日になっていますので二五日のクリスマス当日であると言うことになりす。本来の一日の数え方からするとクリスマスは現代人のいう二四日夕刻に始まり二五日に及ぶものであったようです。二四日イヴ礼拝という形は古代の古いクリスマスのあり方を残しているということが出来るのではないでしうか。二五日にクリスマス祝うようになったのは四世紀以降のことであるようです。ローマ帝国で祝われていた「太陽の誕生祭」(冬至祭)に代わって「義の太陽」キリスト」の出現を祝うキリスト教化がなされたのです。この時期、「キリストの受肉と人格」に関する論争があり、キリスト

2006年度 宗教部の活動

通 年

- 大学礼拝
 礼拝(朝) 土樋・泉・多賀城キャンパス 月～土曜日
 礼拝(夜) 土樋キャンパス 毎週水曜日
- 寄宿舎礼拝
 泉男子寄宿舎 毎週月曜日
 泉女子寄宿舎・旭ヶ岡寄宿舎 毎週火曜日
- 聖書研究会
 土樋・泉・多賀城キャンパス
- 宗教部会 毎月
- 4月 チャペルニュース96号(新入生歓迎号)発行
 キリスト教活動のハンドブック発行
 第11回スプリングカレッジ(15日)
- 5月 春季宗教教育強調週間特別伝道礼拝
 泉(10日)・土樋キャンパス[朝](11日) 説教者 橋爪 忠夫牧師
 多賀城(10日)・土樋キャンパス[夜](10日) 説教者 関川 泰寛先生
- 6月 チャペルニュース97号(春季特別伝道礼拝特集号)発行
 キリスト者推薦学生との懇談会(20日)
 礼拝奉仕者懇談会
 土樋(14日)・多賀城(16日)・泉キャンパス(15日)
- 7月 第30回青山学院合同チャプレン会議(21～22日)
 第32回サマーカレッジ(25日～27日)
- 9月 第52回教職員修養会(4日～5日) 講師 湊 晶子先生
- 10月 秋季宗教教育強調週間特別伝道礼拝
 泉(3日)・土樋キャンパス[朝](4日) 説教者 キスト岡崎・さゆり宣教師
 多賀城(4日)・土樋キャンパス[夜](4日) 説教者 エイブラハム・キスト岡崎宣教師
- チャペルニュース98号
 (サマーカレッジ・秋季特別伝道礼拝号)発行
- 12月 泉キャンパスクリスマス(1日)
 キリスト者推薦学生との懇談会(5日)
 チャペルニュース99号(クリスマス特集号)発行
 大学クリスマス
 土樋・泉(13日)・多賀城キャンパス(14日) 説教者 T.J.ヘイスティングス先生

2007年

- 1月 第11回キリスト者教員研修会(13日)
- 2月 礼拝オルガニスト懇談会(13日)
 礼拝司会者懇談会(13日)
- 3月 大学礼拝説教集(第11号)発行
 研修会・修養会発題報告集発行

Q「クリスマス礼拝」とは?

「クリスマス礼拝って何で

養子論という異端説を退けるためにキリストが神の御子として人間の姿で誕生されたことが強調されたことが背景にあります。(永井 義之)

「すか?」と尋ねられますと、答えることはあまりにも多すぎると思います。そこで、簡単に分かりやすく答えますと、キリストの誕生日を祝う礼拝です、と答えましょう。一月二五日がキリストの誕生日、すなわちクリスマスと教会の暦で定められていますので、この日を祝って礼拝を捧げる

のです。キリストの誕生日の前夜は、クリスマス・イヴと呼ぶことは、みんな知っていると思います。つまり、二四日ですが、この日にも教会では、礼拝をします。二四日の夜にロウソクを用いて、「キャンドル・サービス(燭火礼拝)」を行います。キリストが暗闇を照ら

す光として到来したので、夜にロウソクの光を用いて礼拝するので。さて、クリスマス・イヴの礼拝、そしてクリスマス礼拝は、いつから始まったかご存知ですか、実は、キリストが誕生したその夜に、もう礼拝が行なわれたのです。聖書をご覧ください。ルカによる福

音書の二章八節以下には野にいた羊飼いがキリストの誕生を告げられて、ベツレヘムという生誕地に向かう話が出てきます。マタイによる福音書二章には、東の地方から占星術の学者達が星に導かれて礼拝をしに来ます。最初の礼拝者たちは、羊飼いであり、東方の博士たちです。こうして、キリストは、誕生の日から礼拝をされるお方であったのです。

(野村 信)

● 編集後記 ●

今年度の最終号となりました。一年がまもなく終わろうとしています。一年生諸君にとって大学生としてはじめて過ごしたこの一年は、いかがだったでしょうか。最近、「孤立する大学生」などと言われ、キャンパスで孤独な学生が多いといわれますが、皆さんはともに学び、遊ぶ仲間を見つけたことができたでしょうか。

(NA)